

小中高生のための
りっぱなお祭り男養成講座

その1

素朴な疑問の Q&A

西勝楽町若者

1 「角館のお祭り」って、どんな祭り？

- ・「お祭り」ってなあに？
- ・「お祭り」っていつはじまったの？
- ・どうして「やま」っていうの？
- ・「やま」はどうしてあっちやこっちへ行くの？

2 歴史

- ・町の歴史・・・かつらく村のお薬師さん
- ・じゃあ「お薬師さん」ってなあに？
- ・どうしてお寺なのにお参りのとき手をたたくの？
- ・どうして人形がのるの？

3 これで君も「お祭り」博士だ

- ・お薬師さんと神明社
- ・昔は「やま」を担（かつ）いでた？
- ・「外町九丁内」って知ってるかい？

4 近代になって

- ・「やま」がふえたぞお
-

1 「角館のお祭り」って、どんな祭り？

「お祭り」ってなあに？

どうしてお祭りをするのかっていうと、「一年に一度、神様と寝食を共にして、神様に感謝したりお願い事をする」ためだ。

「ふかあ〜い山の中からやってくる神様を迎えて、お酒やごちそう、歌や踊りでおもてなしをして、神様といっしょに楽しみ、各町内や各家々に招いた神様にご加護（ごかご＝守ってもらうこと）を祈る」のがお祭りだ。

神様は普段、ふかあ〜い山の中に住んでいる。それをお迎えに行き乗ってもらって、各町内や各家々にお連れするのが「やま」だ。

だから「やま」にはやっぱり「山」が作ってあって、草や木も植えてある。普段住んでいる所と同じ方が神様も落ち着くだろうなあと考えたからだ。そして置き山のように高あ〜く作ると、神様を見つけやすいだろうなあと考えたからだ。

そして、神様が退屈しないようにと「おやまばやし」の音楽や踊りでおもてなしをしたり、お酒もたくさん飲んでもらおうということはいっぱいあがるのだ。

（ほんとは大人がぜええ〜んぶ飲んでしまうのだけれど・・・）

「お祭り」っていつはじまったの？

最も古い文献（ぶんけん＝古い本のこと）によれば、約380年前にはすでに、お薬師さんのお祭りが行われていたそうだ。

「やま」がいつごろからでたかは不明だが、「北家御日記」の1799年（寛政11年）の記述に「飾山」が初めてでてくる。

そして、明治時代までは「担ぎ山（かつぎやま）」だったんだって。

電気が発明されて、角館の町にも電柱が建てられて電線が張られるようになってから、車をつけて「曳山（ひきやま）」にしたそうだ。

曳山の形は変わっても、お祭りを愛する心と祭り行事全体の形（張番とか町内組織とか）は変わらず「古い伝統を今に伝えている」ことで、国の「重要無形民俗文化財」に指定されている。

どうして「やま」っていうの？

「山車」「曳山」とかく。大きな車がついてるから「山車」、みんなで曳っぱるから「曳山」。たまに「ひきやま」ともよぶ。どっちにしても神様の住んでいる山を小さくしたから「やま」なので、「だし」とはよばない。

やまは「水ナラ」という木で作る。一回作れば20年から30年は大丈夫だ。だから「新山（あらやま）建造」は一生に一度経験できるかできないかだ。

重さは3トンくらい。それを支える車は「ツキケヤキ」という木が一番だけど、そんなに太い木はめったにないので「松」を使う。西勝楽町にはツキケヤキの小さめのが1組と松の大きいのが1組ある。西勝楽町の今のやまは平成10年に作った。みんなのおとうさんやおじいちゃんが一生懸命がんばって作ってくれたものだから、大切にしよう！

やまにはお囃子さんが5人くらいと、かわいい踊り子さんが6人くらい乗る。

それと、目に見えない神様が宿る（化身という）人形、後ろには「コモ樽」と「送り人形」が乗る。「送り人形」は、「神様あ、来年もきつと来てねえ！」とって楽しくおみおくりするという意味が含まれている。

「やま」はどうしてあっちやこっちへ行くの？

角館のお祭りは、「神明社」と「お薬師さん」の2つのお祭りが一緒になったものだから「神明社」と「お薬師さん」へは必ずお参りに行く。それから、角館には昔佐竹さんというお殿様がいたから、お殿様にやまをお見せに行くという習慣も続いている。

西勝楽町の「やま」は、佐竹の殿様が角館に来る前から「お薬師さん」は今の伝承館のところにあったので、そこにお参りするために行く。せっかくそこまで行ったんだから、殿様にもお見せする。それからこんどは自分の町内を一軒残らずお見せにまわる。そしてそれがすんだら、こんどは他の町内にもお見せに行くのだ。

さあここからがお祭りだ。だからお祭りは楽しいのだ！

「他の町内にも行く」ということは、どっかでどこかの「やま」と出会っちゃうんだなあ。どっちも他に目的があって急ぐときはすんなり交差（すれちがうこと）する。だけどそればかりでは面白くない。面白くなるのはここからだ。

「交差して目的へ向かおう」とか「どこをどう通ったら目的を達成できるか、イチバンいいお祭りができるか」とか、「このあいてに道をゆずるのはいやだ」とか、大人はいろいろ考えるのだよ。

そして、18台ぜえ～んぶの「やま」の動きを考えて、自分の「やま」を動かすことがとても楽しい。この面白さが分かれば一人前だ。もちろん小さいときから曳山についている君たちも、すぐ分かるようになる。つまり「お祭り男」の予備軍だ。

んで、どこかの「やま」と出会っちゃうと

「自分のやまはよけたくない。正々堂々とまっすぐすすみたい。」

とおたがい主張するんだなあこれが！

自動車のすれちがいとと同じで、すこしよせないと（ゆずりあいの心がないと）交差できないに決まってる。

それが、そんな精神なんてこれっぽっちもないやま同士が「ぜったいよせたくない」とくるから、あとはけんかだ。（人のけんかじゃあなくてだヨ）

「それではわかりました。私のやまはあなたのやまを乗り越えてでもまっすぐに進みます。」となって「山ぶっつけ」が始まるのだ。

交渉員になって、この「本番交渉」をやれるようになると、お祭りがすごく楽しいものになるぜ！ それと、「山ぶっつけ」のとき、山を操縦するのが「先導」だ。

「交渉員」や「先導」になるにはがんばらなくっちゃあ！ねっ。

炊きだしのおにぎりを運んだり、「斥候（せっこう）」とって、他のやまがどこにいるかていさつにいたり、いろんなお手伝いをして、責任者から認めてもらってはじめてなれるんだ。

だから、がんばって早く大人になろう！！

2 歴史

町の歴史・・・かつらく村のお薬師さん

その昔、角館の城下町は、今の古城山の北側にあったそうだ。そして戸沢さんというさむらいが治めていたそうだ。古い本に「1424年（応永31年）戸沢家盛が門屋城から角館城に移る」と書かれている。

その後、徳川家康は江戸幕府を開くとき、諸大名の国替えを命じた。つまり、全国の殿様達をいっせいに転勤させたわけだ。

1602年（慶長7年）に、戸沢さんは茨城へ転勤させられて、かわりに佐竹さんが秋田にやって来た。んで、この佐竹さんには弟がいて、会津の芦名さんにおむこさんになったんだけど、伊達政宗に負けちゃって兄さんのところへ逃げてきていたんだな。

この芦名さんが角館に殿様としてやって来たんだ。

（そのあとすぐ芦名家ってなくなっちゃって、佐竹さんが来たんだ。）

今の角館は、この頃はほとんど原野（原っぱみたいなもん）だった。

小館、西野川原、西田という地名以外はぜえ～んぶ「かつらく村」だったそうだ。家は90戸くらいで、住んでる人はだいたい300人くらいだったらしい。

道は、細越坂から山根をくだり、今の伝承館を通過して、常光院のあたりから鰯瀬川（かじかせがわ＝桧木内川）を渡る細い道と、岩瀬の方に行く道があるだけだったらしい。

今の伝承館のあたりに、「お薬師さん」があったそうだ。

芦名さんは、1620年（元和6年）に、この原野だった所にまったく新しい町づくりを始めた、それがいまの角館町だ。そして「お薬師さん」は今の西勝楽町に移されたと伝わっている。

じゃあ「お薬師さん」ってなあに？

昔々、平安時代に、空海（くうかい＝弘法大師）という偉いお坊さんが「真言宗（しんごんしゅう）」という宗教（教えのこと）を始めた。

この教えは、山の中でつらあ〜く厳しい修行を積むと、「修験（しゅげん）」とってスーパーマンみたいな力を持った人間になれると信じられていた。この修験とか山伏（やまぶし）の人たちが、村でお医者さんの代わりをしていたんだ。

そしてこの人たちが信じたのが「薬師如来（やくしにょらい）」という仏様だったのだ。

「薬師如来を信じて毎日手を合わせて拝めば、病気がなおりますよ〜」
とって全国に教えを広めたんだ。

お釈迦様も阿弥陀様も仏様なんだけど、薬師如来は「薬師瑠璃光如来（やくしるりこうにょらい）」ともって、手に薬の入った壺を持ってるから、みんなの病気を治してくれるありがたあ〜い仏様なんだ。

そして、12人の神将（しんしょう）と、7,000人の夜叉（やしや）を家来にしてるので、ものすごく強いのだ。

この仏様をみんなで拝んだ所が薬師堂なんだ。

そして修験の人たちが修行を積んだ山が、「峰の三薬師」とって山谷薬師・白岩薬師・院内薬師という山なんだ。

深い山に行けないお年寄りでも、気軽に拝みに行ける場所が薬師堂だ。

まあ、いってみれば山にあるのが本店で、町にあるのが出張所みたいなもんだな。

どうしてお寺なのにお参りのとき手をたたくの？

昔々のある時、戸沢の殿様がある願い事をしたら叶（かな）えられたので、殿さんがとても喜んで「成就（じょうじゅ）院」という名前をつけてくださったんだとさ。（成就ってというのは、願いがかなうこと）

この時から正式には「勝楽山 成就院 薬師堂」とよぶことになったそうだ。

さあここからちょっぴり難しくなるぞお。

さてさて実は、大昔、神様と仏様は同じ世界に住むとする「本地垂迹説（ほんちすいじゃくせつ）」という考えがあって、仏様が神様を護ると考えられていた。つまり豊作をもたらしてくれる「山の神」は薬師如来のことだと説明したのだ。

そのほうが、古くからのヤマノカミ信仰に対して、当時は新興宗教だった真言宗の教えも入り込みやすかったのだ。

これを「神仏習合」といって、神様と仏様と一緒に拝むという、長い間日本の宗教のかたちだったんだ。

ところがだ、明治3年に、「神仏分離令（しんぶつぶんりれい）」という法律が定められて「神様と仏様はまったくべつのものですよお！」とされちゃってから、神社とお寺がはっきりわかれちゃったんだ。

この時、お薬師さんはご本尊が15cmくらいの仏像（薬師如来）だったので、お寺だよと定められちゃったんだ。

その前までは、手を打ってお参りしてたのに、この日から「手を合わせて拝むこと！」なんてかってに決められちゃったんだ。

だから、お寺なんだけど、「とりい」もあるし、大昔してたように手を打ってお参りするのはいまがじゃないんだ。でも正式には「音を出さずに2回手を合わせる」のがほんとうだって徹さん（お薬師さんの）が言った。

いづれこの年を境にお薬師さんはお寺にされちゃたから、「お祭り」は「神事（神様の行事）」だからってんで、お薬師さんよりあとからできた「神明社」のほうに、曳山をひくお祭りも移っていったかんじだな。

でも最近はまだ、曳山を曳くお祭りは、本来お薬師さんのお祭りだってことがみんな分かってきたようで嬉しい。

昭和36年に、吉成直太郎先生が書かれた

「これはかたちの上の問題で、薬師様が仏体であろうと神さまでなかろうとも、角館町民（かつらく村の民）とのつながりはそう簡単に割り切れるものではなかった。おそらく一千年以上の昔から角館（かつらく）の土と人を護り続けてきた薬師如来と、角館町も町民も別れることはできなかった。」

という一文に全ての思いが込められているようで、すごく感動する。

ややこしい話だけど、君たちも大人になったらわかる。

どうしてお囃子と人形がのるの？

それは、せっかく来てくれた神様が退屈しないように、楽しんでくれるようにおもてなしをするためなんだ。

これは「風流（ふうりゅう）」とって、「余興（よきょう）」とかむずかしい意味があるんだけど、まあ「お楽しみ」とか「賑（にぎ）やかなもの」ということだ。

始まりは神様をもてなすためだったんだけど、だんだんお祭りがさかんになって、「ハレの日（普段と違う特別な日）」をより楽しくすごそうという人々の思いや、にぎやかに過ごしたいという気持ちが、踊り・お囃子を乗せる今の形になったんだそうだ。

お囃子の歴史はとても古くて、それはそれで研究されているから、この次にゆっくり話そう。江戸時代のお芝居や、謡曲、長唄なんかもでてくるし、中仙の「小沼のオンチ（オンチャ）」なんかもでてきちゃうぞ。

「人形は神の化身（けしん）」といわれてる。

つまり、神様は人の目に見えないもんだから、なにかしら目に見えるものを置いて、「ああ、たしかに神様が乗ってくれてるんだな」と思わせないとありがたくないじゃん！

そのために人形を乗せてるんだって。

その人形を作る人の歴史もこの次にゆっくり話そう。

平福穂庵から始まって、小松さん、蔦屋さん、広目屋さん、そして文峰・文励親子のことなど・・・。

3 これでも「お祭り」博士だあ

お薬師さんと神明社

神明社は、天照大神（あまてらすおおみのかみ）を祀（まつ）る伊勢神宮の系統で、戸沢氏の時代は古城山にあったそうだ。

そして芦名氏の町づくりで田町山に移されて、1656年（明暦2年）の芦名家断絶後、1731年（享保16年）に佐竹の殿様が今の場所に建てたんだそうだ。

その昔、神明社のお祭りは毎年6月で、提灯をともし火のお祭りだったそうだ。今の安藤醸造さんの盛大な提灯はその頃を偲ばせてくれる。

一方、お薬師さんのお祭りは毎年12月で、ヤマノカミ信仰（後には薬師如来信仰）の祭りだった。

だけど、12月は寒くて雪も降るしたいへんだから、今の9月にさせてもらったんだそうだ。1732年（享保17年）から、2つのお祭りが同時に行われるようになったと記録されている。

昔は「やま」を担いでた

「マエタギ」とか「ヨコタギ」って知ってるよね。

これは漢字で「前担木」「横担木」と書く。

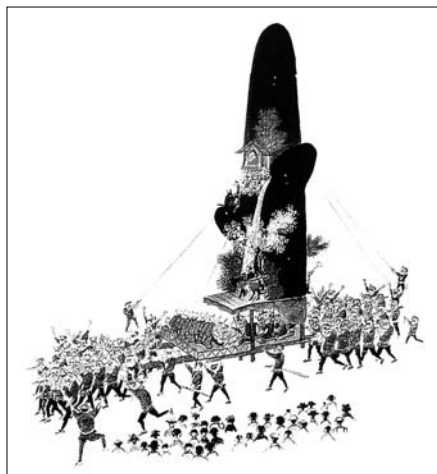
「担」っていう字は、「担ぐ（かつぐ）」っていうことで、つまり、

「前を担ぐ木」という意味で、

昔は大勢でかついでいたんだ。

そして「モッコ」は、今の「置山」くらい高かったんだって。それが明治時代に、町じゅうに電線が張られてから、「モッコ」も低くなって車をつけて曳っぱるようになったそうだ。

横町の五井さんちで、自分のやまに、丸太を輪切りにした車をつけてみたら具合がよかったの、それが広まったという話だ。



「外町（とまち）九丁内」って知ってるかい？

昭和9年に「山根」（山根・谷地町・旭会）が新しくやまをだすまでは、昔っからの九丁内でやまをだしていた。

火除け（ひよけ）という今の役場のある所から北は、おさむらいさんが住む町だったの。火除けから南が町民の住む町で「外町」とよんでいたの。この外町にある九つの丁内でやまをだしていたから、昔っからの丁内と言う意味で、外町九丁内ってよんでたんだよ。

ちなみに、町の南の端っこは花田印刷さんのところで、おおきな柵（さく）があったそう。

では外町九丁内と、それぞれの紋章を紹介します。

丁内名	現在の曳山名	紋章	
横 町	横 町	不 明	
中 町	中央通り	厚 輪	
下 中 町	中央通り	立 鼓	
上 新 町	上 新 町	三つウロコ	
岩 瀬 町	本町通り	三 つ 石	
下 新 町	本町通り	三 つ 引	
下 岩 瀬 町	下 岩 瀬 町	三 菱	
七 日 町	七 日 町	七 つ 星	
西 勝 楽 町	西 勝 楽 町	五三の桐	

ついでだから話しところ。

昔は、今の「駅通り」っていう道はなかったんだ。明治になって、鉄道ができて、駅ができてから新しく作られた道路なんだ。

それまでは、坂本薬局さんのまえから竹原町を通る道が、白岩の方へ行く街道だったんだよ。

「南高通り」ってのもなかった。

昔なかった道がいっぱいあるよねえ。

4 近代になって

曳山がふえたぞお。

ではここで、外町九丁内以外の曳山が出た年を紹介します。

昭和 6 年	山根	
昭和 14 年	岩瀬	
昭和 23 年	駅通り	
昭和 29 年	東部	今の「駅通り」と「駅前」が一つ
昭和 32 年	中央通り	「中町」と「下中町」が合併
昭和 34 年	菅沢	
昭和 36 年	西部	「西勝楽町」から独立
昭和 38 年	本町通り	「岩瀬町」「下新町」「下岩瀬町」
昭和 39 年	駅通りと駅前	「東部」が駅通りと駅前の2つに
昭和 41 年	北部	「山根」から独立
昭和 46 年	桜美町	
昭和 54 年	下岩瀬町	「本町」から独立
昭和 62 年	東部	「菅沢」から独立
平成 7 年	大塚	「岩瀬」から独立
平成 9 年	川原町	「北部」から独立

「りっぱなお祭り男養成講座ーその2」 予告

- お囃子の歴史
- 人形と人形師の歴史
- どうして「モッコ」のてっぺんにザルをおくの？
- 張番ってなあに？
- 交渉のしきたり
- 西勝楽町は夜の街

などなど・・・

本書は、平成7年（1995）に、西勝楽町交渉員勉強会のために編纂され、その後小中学生のために書き下ろしたものを、この度10年ぶりに改訂したものです。当時10歳だった子が、今はりっぱなお祭り男に成長してくれました。

とても嬉しく思います。

そのぶん、自分は無為に年を重ねました。

そしてこんどは、その子たちが親になり、その子供達の時代が来るでしょう。

自分の出来る範囲で、分かりやすい歴史解説をしたいと思えます。

語句の使い方等、出来るだけ平易に心がけましたが、ご父兄の皆様からもよく解説してあげてください。文責は羽根川和雄にあります。

平成17年9月

参考文献	「角館誌」	・・・角館誌刊行会
	「角館のお祭り」	・・・富木耐一
	「角館風土記」	・・・小林定静
	「勝楽町のお薬師様」	・・・吉成直太郎
	「角館祭りの やま行事報告書」	・・・角館町